

金澤古蹟志卷廿一

城西長町筋

○長町

舊藩中は、都て藩士の邸地にて、一番丁より六番丁まで六條あり。舊傳に云ふ。此の町内は、往昔より火災の難なく、寶曆九年の大火にも其の難を遁れたり。故に諸士の邸地甚だ舊家多し。長氏の舊邸は、能登の舊領地田鶴濱より引き來りたる古館なるのみならず、一番丁岡田氏の長屋をば、嘉永六年五月造替せしに、元和二年の棟札出でたる外、慶長・元和・寛永以來の建物存在するもの多しといへり。龜尾記に云ふ。長町の町名は、其の道路直にして甚だ長し。故に長町といへりと。或説に、此の地に古へ山崎長門居す。長町は長門町の上略ならんか。山崎氏の支流數人後々まで居住すと。又一説には、長氏の居邸より起りたる町名にて、ちやう町といふべきを、唱へ悪しき故になが町と呼べるな

らんといへり。平次按ずるに、元祿六年の士帳に、香林坊橋下より圖書橋の下邊までをば、都て長町或は本長町と記載し、元祿三年火災記にも、長町加藤圖書近所堀宗叔家より出火すとありて、此の時代圖書橋の下邊までを長町と稱し、宗叔町の名なかりしと聞ゆ。されば其の路程甚だ長きにより、長町とは呼びたる事いぢるし。一説なる長門町の略稱、或はちやう町などの説は取るに足らず。皆後人の臆説なるべし。山崎長門の邸跡は、今傳馬町の裏に即ち長門町といへる町名あり。また長氏の苗字に據りて、町名をなが町と稱すべきよしなし。

○踏分の芝

龜尾記に云ふ。香林坊橋の下長町入口の廣地をば、踏分の芝と口碑に傳へたり。往昔此の地邊河原の中嶋なりし頃の遺號ならんといへり。按ずるに、拾葉名言記に、昔は犀川二瀬に成りて、一瀬は香林坊際の小橋の下を流れ、殊に水深きに依つて、船なども入る程なりしとあり。そのかみの地景おもひやるべし。

○稻荷眞長寺舊地